

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成22年10月14日 (2010.10.14)

【公開番号】特開2009-62475(P2009-62475A)

【公開日】平成21年3月26日 (2009.3.26)

【年通号数】公開・登録公報2009-012

【出願番号】特願2007-232485(P2007-232485)

【国際特許分類】

C 0 9 B 67/50 (2006.01)

G 0 3 G 5/06 (2006.01)

C 0 9 B 47/04 (2006.01)

C 0 9 B 67/12 (2006.01)

【F I】

C 0 9 B 67/50 Z

G 0 3 G 5/06 3 7 1

C 0 9 B 47/04

C 0 9 B 67/12

【手続補正書】

【提出日】平成22年8月26日 (2010.8.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

(V型ヒドロキシガリウムフタロシアニン結晶)

本実施形態のV型ヒドロキシガリウムフタロシアニン結晶は、分光吸収スペクトルの極大ピークが 7 9 0 nm 以上 8 0 9 nm 以下の波長範囲にあることを特徴とする。

また、本実施形態のV型ヒドロキシガリウムフタロシアニン結晶は、分光吸収スペクトルの極大ピークが 7 9 1 nm 以上 8 0 5 nm 以下の波長範囲にあることが好ましい。

本実施形態のV型ヒドロキシガリウムフタロシアニン結晶は、電荷発生材料として好適である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

また、本実施形態のV型ヒドロキシガリウムフタロシアニン結晶は、極大ピークが 7 9 0 nm 以上 8 0 9 nm 以下の波長範囲にあるピークが、6 0 0 nm 以上 9 0 0 nm 以下の範囲において、1 番目又は 2 番目に大きいピークであることが好ましく、2 番目に大きいピークであることがより好ましい。